「深山大沢」を体現する〝良心の共同体〟へ――2025年の創立150周年に向け「同志社ルネサンス」が始動

近代国家の建設に向けた改革が急速に進む1875（明治8）年、新島襄により創立された同志社英学校を前身とする同志社大学。「良心を手腕に運用する人物の養成」という建学の精神を実現する「良心教育(1)」は、「キリスト教主義・自由主義・国際主義」を理念に、今日まで揺るぎなく脈々と受け継がれています。

2024年度からは、オンデマンド授業も活用した新たな学年暦のもと、留学プログラムやインターンシップ、ボランティア活動など主体的に学び活躍する機会が拡大。さらに、2026年秋竣工予定の今出川キャンパスの新図書館建設や、京田辺キャンパスのスポーツ・コンプレックスの新設など、創立150周年を来年に控え、小原克博学長のもと「同志社ルネサンス」と呼ぶ先導的な大学改革が進められています。

小原克博（こはらかつひろ）学長

1996年同志社大学大学院神学研究科歴史神学専攻博士課程（後期課程）修了。専門はキリスト教思想、宗教倫理、一神教研究。同大学神学部教授、神学部長などを経て、2024年4月から現職。主な書籍に『一神教とは何か－キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』（平凡社新書）など多数。

同志社大学

〒602-8580　京都府京都市上京区今出川通烏丸東入　入学センター入学課　TEL 075-251-3210　https://www.doshisha.ac.jp/

学ぶことで「自由」になる価値転換システムとしての大学へ

同志社大学の創立者である新島襄は、個人の海外渡航が禁止された1864年に、21歳の若さで自由な学びを求めアメリカに渡航し、アーモスト大学で日本人として初めて学士号（理学士）を取得しました。帰国後はキリスト教精神のもと、時代に先駆けて自由や個の大切さを説き、生涯をかけて理想の学校をつくろうと挑戦。「その卓越した精神と、新島が残した数多くの言葉は、創立150周年を来年に控える今日においても脈々と受け継がれています」と小原克博学長は説明します。

「『新島襄がとても大切に使っていた言葉の一つに『自由教育』があります。これは端的に言うと、〝学ぶことによって人は自由になれる〟ということ。新島はまさにそれを自ら体現した人ですが、大局的な知見がなければ、人はさまざまな物事に拘束されて生きていることにすら気づきません。真の自由を獲得するためには、縦型の専門領域に立脚しながらも、多様な知を横断的に繋げていく学びの力が必要なのです」

こうした中、同志社大学ではリベラルアーツ教育を充実させるとともに、今春から原則、対面13回＋オンデマンド授業2回による新学年暦を導入。休暇期間が長くなり、主体的な学びの機会が拡大しました。

「『新島は晩年、『深山大沢（しんざんだいたく）龍蛇を生ず』という言葉を繰り返し語りました。キャンパス自体を多様性や驚きに満ちた環境にしなければならないのはもちろんのこと、物理的なキャンパスを超え、学生がおのずと世界に飛び出していきたくなるような仕組みを教育の中につくりたい。学べば学ぶほど自由になれるという、『価値転換システムとしての大学』を構築したいと考えています」（小原学長）

世界に広がる教育・研究の場 起業人を育成する仕組みも

同志社英学校の創設当初、授業は英語で行われていました。グローバル化が急速に進む今日においても、英語の基礎力、コミュニケーション能力は不可欠で、学生一人ひとりの習熟度に合わせた体系的なカリキュラムを整備しています。

同志社大学は海外にも多くの協定校を有していますが、独自の取り組みとして、「テュービンゲンEUキャンパス(2)」も展開しています。「EUキャンパスプログラム」などの教育プログラムのほか、共同研究やシンポジウムなどを通じた研究交流にも力を入れています。

一方、今日では文系の学生でも、就職すればマーケティングなどの業務で高度な情報分析のスキルが求められます。こうした中、文系・理系を問わずすべての学生が履修できる「同志社データサイエンス・AI教育プログラム（DDASH：ディーダッシュ）」を開設しています。

「NTT西日本、NTT EDXと連携し、教育分野に生成AIを活用した実証実験なども始まったところです。『同志社はどの学校よりも先に行かなければいけない』と新島が手紙の中で語っているように、新しいテクノロジーも検証を重ねながら採り入れ、これまでになかった教育を展開していきたいですね」（小原学長）

また、空調メーカーのダイキン工業を世界的企業に育て上げたダイキン工業名誉会長の井上礼之氏など、同志社大学は卓越した企業人、実業家を多数輩出してきました。こうした中、全学共通教養教育科目の中で注目されるのが「アントレプレナーシップ論」です。講師陣は、米国シリコンバレーと東京に拠点を置くベンチャーキャピタルDNX Venturesが担当します。

「今日では、日本でも自分で起業し新しい領域を切り拓く人材が求められています。その層を掘り起こし、経済の活性化に厚みを持たせていくためには、大学がしっかりと関係していく必要があるでしょう。今後はそうしたアントレプレナー、特に大学発のスタートアップの支援にも力を入れていきます」（小原学長）

文系学部の拠点・今出川校地（左）と理系・文理融合系を中心とした学部の拠点・京田辺校地

一神教研究で世界を牽引 宇宙に挑む研究も展開

大学にとって重要な柱は教育と研究、社会貢献ですが、これらは独立して成り立っているわけではありません。良質かつ高度な研究をすればするほど、そのエッセンスが教育に還元されていくので、教育と研究の高次元の循環が大学の中で絶えず生み出されていくような状況をつくっていきたい、と小原学長は語ります。

「現代の教育・研究は、一つの分野だけで完結するものではありません。AIや自動運転技術の例を見ても、社会実装されるためにはテクノロジーだけでなく、法律の知識や倫理など、さまざまな領域の知が要求されます。本学でも総合大学としてのスケールメリットを生かし、理系分野と人文・社会科学系の分野をつなぐ文理融合的な研究を積極的に進めていきます」（小原学長）

一方で、ロシアによるウクライナ軍事侵攻やパレスチナ・イスラエル戦争のように、地球規模で見ると、極めて緊迫した国際情勢が続いています。こうした中、同志社大学ならではの世界水準の研究として注目を集めたのが、小原学長（当時は神学部教授）も幹事として先導し、平成15年度の文部科学省「21世紀COEプログラム」に採択された「一神教の学際的研究――文明の共存と安全保障の視点から」です。

「私が一神教研究に取り組むきっかけとなったのは、2001年に発生した9・11アメリカ同時多発テロです。あの事件は世界に大きな衝撃を与えたと同時に、私自身、これは学問的にきちんと受け止めなければならないと心底思いました。キリスト教とは何か、イスラム教とは、あるいはユダヤ教とは何かという問題をばらばらに考えるのではなく、それらを関係づけることによって初めて見えてくる大きな問題に取り組むため、一神教学際研究センターを立ち上げ、COEプログラムの事業に当たったのです。海外ではユダヤ教とキリスト教、イスラム教の研究者が一堂に会して研究することは極めて難しく、3者の関係者を招請して同志社大学で国際シンポジウムなどを開催するのは、日本ならではの地政学的なアドバンテージです。一神教の相互対話は、今後も世界に向け取り組んでいくべき研究領域だと考えています」（小原学長）

さらに、自然科学の分野で同志社の優れた研究力を世界にアピールしたのが、生命医科学部の渡辺公貴教授らが開発した超小型変形月面ロボット「SORA-Q」です。今年1月、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が打ち上げた小型月着陸実証機から放出され、月面に着陸して撮影に成功した、世界初の完全自律月面探査ロボットとなりました。

「かつて新島襄が『大学は智識の養成所なり、宇宙原理の講究所なり』と大学を定義したように、『宇宙』も同志社にとっては重要なキーワードの一つです。人類未到の地を目指した研究を通して積極果敢に挑戦する精神を、学生の皆さんもぜひ受け継いでほしいですね」と小原学長は語ります。

伝統と革新のキャンパスで「自分がしたいこと」を実現

「いま、自分がしたいことは何なのか。それが実現できる大学はどこなのか、という視点で大学選びをしてほしい」と語る小原学長。鴨川河畔にほど近く、緑豊かな京都御苑と相国寺に隣接する今出川キャンパスは京都の中心部に位置し、京都の文化や歴史を存分に味わうことができます。キャンパスにも5つの重要文化財(3)があり、こうした環境で学ぶことで、物事の見方が変わっていくような魅力を有しています。一方、京田辺キャンパスは今出川キャンパスの10倍の面積を誇り、理系・文理融合系を中心とする最先端の教育・研究を展開しています。このように、伝統と革新が織りなす魅力も同志社の大きな特徴の一つと言えるでしょう。

「私たちが大切にしている言葉に、新島襄が残した『人一人ハ大切ナリ』と『倜儻不羈（てきとうふき）(4)』という言葉があります。新島はまた『学生をくれぐれも丁重に扱うように』という遺言も残しました。一人ひとりの学生と向き合い、学生を大切にしている伝統は、同志社の中に今も息づいています。本学に入学したら、大勢の学生の中で迷うようなことがあるかもしれません。しかし、必ず一人ひとりの学生の面倒をみてくれる教員や職員がいますので、安心して、充実した学生生活を過ごしてください」と、小原学長は呼びかけています。

(1)「良心碑」（良心教育）

新島襄が、療養に励む東京から一学生に送った手紙の一節が、自筆の書体を拡大して刻まれている碑。原文は「良心之全身ニ充満シタル丈夫ノ起リ来ラン事ヲ望テ止マサルナリ」。同志社教育の真髄を示す「良心教育」という言葉はこれに由来する。

(2) テュービンゲンEUキャンパス

同志社大学は37カ国・地域176大学（2024年3月末現在）と学生交換協定を結んでいるが、2017年には最も重要な海外拠点の一つとして、ドイツ屈指の名門テュービンゲン大学構内に「EUキャンパス」を開設した。春、秋の各学期に約15名の学生が学んでいる。

これらのプログラムでは、テュービンゲン大学学生との共修科目も提供されており、両大学の学生は共修環境を通じて異文化理解・異文化交流を深めている。

(3) 5つの重要文化財

今出川キャンパスには「同志社礼拝堂」（チャペル）をはじめ、「彰栄館」「有終館」「ハリス理化学館」「クラーク記念館」の5棟の重要文化財（赤煉瓦建物）があるほか、京田辺キャンパスには京都府指定史跡が2遺跡、歴史資料館には重要文化財「二条家文書」があるなど、クオリティーの高い多種多様な文化財を有している。

(4) 倜儻不羈（てきとうふき）

新島が遺言の中で語った言葉で、「倜」は優れていて、拘束されないこと。「儻」は志が抜きんでていること。「羈」は手綱の意味なので、「不羈」でこれも拘束されないことを意味する。学生には、粗削りでも才気にあふれ、志をもって大きな目的に向かって行動する「龍蛇」のようになってほしいと新島は願った。

（写真4点：同志社大学提供）